

Ferdinando Frega – Nando the Scribe

A BANZAI FOR HER



Gillettenarrative.com

彼女に捧げる Gillette のバンザイ

Gillette Trailer 23 — 書記ナンド

ローザはナポリ出身の同僚で、私と同じマネージャーだった。翻訳のいらぬ類いの自信をまとい歩いていた—もくろみはすべて顔に書いてあり、読める者はみな、それを読んだ。

ヴィンチェンツォ—野心ともろさでできた1メートル58センチ—が彼女のために妻子を捨てたのは、ほとんど避けようのないことだった。選ばない男もいる。降伏するのだ。

廊下で彼女に会うたび、あの日本のクラブに足を踏み入れたような気がした。すべてが儀式で、すべてが暗号で、すべてが距離である、あの店だ。最初の所作は微笑み。それから、こちらにはわからない言葉でのひと言。だが本当のメッセージはその下のどこかにあると、こちらにもわかる。

たどたどしい英語で、ローザはいつも同じことを訊いた。どうして友だちがいないの？ どうして人との関係を保てないの？ 何が邪魔をしているの？ 何があなたを引き止めているの？

一度も答えなかった。答えたくなかったからではない。まだ正しい答えを持っていなかったからだ—あるいは、彼女が待ち構えていた答案を渡してやりたくなかったのかもしれない。

ある晩、ホテルの入口で彼女を見かけた。誰かが車に乗せてくれるのを待っていた。どこへ行くのかと訊かれた。答えはすらすら出た。

「世界のどこへでも。君の腕のなかにいられるなら」

彼女は吹き出した。結局、顧客や数字や戦略の話になった。そのとき彼女は打ち明けた。エリアマネージャーは月の予算をそっくり自分に注ぎこんでいて、私たちの成績はひとえに自分たちの実力の産物なのだと。

なんてクソ野郎だ、と私は思った。それから微笑んだ。

その夜、私はすでに一つのことを悟っていたからだ。エリアマネージャーの予算は私がいただいた—そして彼はまだそれを知らない。

バンザイ。

ナンド